論文

保育者による AED 普及啓発プロジェクト
―周辺地域住民の救命率アップを目指して―

小野　隆　清水寛子
清水健明　岡田繁雄

１．はじめに

AED（自動体外式除細動器）は、2004 年公布の「非医療従事者による AED の使用について」[1)] から徐々に全国で設置が進んでいる。しかしながら、多くの地域住民がその使用方法や基礎的な知識・技能を習得しているかどうか疑問が残る。特に、演習的な内容での講習会・研修会を十分に受けているものは少ない。そこで、本研究では、保育者が子育て支援の専門家として、保育の現場のみならず周辺地域住民の一次救急に関わることが、子どもたちに命の尊さを伝えていくことにも繋がると考え、その取組の可能性について検討することを目的とした。二つの実践について、それらの内容と効果を報告する。

２．研究方法

① O 認定こども園に関係する保育者 27 名に対し、事前に保育者研修を実施することで、在園する園児とその家族関係者に安全教育の在り方を伝えるための知識・技能を高めることに繋がるかどうかの検証を行った（写真 1、2）。研修の内容は、NPO 法人いばらき救命教育・AED プロジェクトの PUSH コース（胸骨圧迫と AED 使用法に特化した内容）を基にアレンジしたものとした。具体的には、トレーニングキット「あっぱくん」を使用し、AED と胸骨圧迫に関する知識・技能を確認する内容を導入した。感想の自由記述に対し、KHCoder[2)] による計量テキスト分析を行い内容を解釈し考察することとした。

写真 1．S 副園長による職員研修「心肺蘇生と AED」の様子

写真 2．S 副園長による職員研修「心肺蘇生と AED」の様子

倫理審査の承認についての記載に関し、本研究は名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学の研究倫理審査委員会の承認を得ている（許可番号 2022-2）。

② A 県の現任保育者研修に参加した園長 66 名に対し、「リスクマネジメントと安全管理」をテーマとした講座の中で、トレーニングキット「あっぱくん」を使用した AED と胸骨圧迫に関する知識・技能を確認する内容を導入し、その効果の検証を行った（写真 3、4）。グーグルフォームによるアンケートは、個人情報等、個人が特定されない形でデータを処理することにより、人権擁護に努めた。感想の自由記述に対し、KHCoder[2] による計量テキスト分析を行い内容を解釈し考察することとした。

写真 3．講師 O による園長研修「リスクマネジメントと安全管理」の様子

写真４．講師Ｏによる園長研修「リスクマネジメントと安全管理」の様子

３．研究結果および考察

①Ｏ認定こども園の研修は、約30分間であったが、研修後のアンケートより、短時間で分かりやすく、楽しく学べる心肺蘇生講習となったことが分かった。

また、一人一体のトレーニングキット「あっぱくん」を用いるため、短時間でも疲れるほどの実習が可能となり、一度に大勢の保育者が受講できたことも特徴であった。

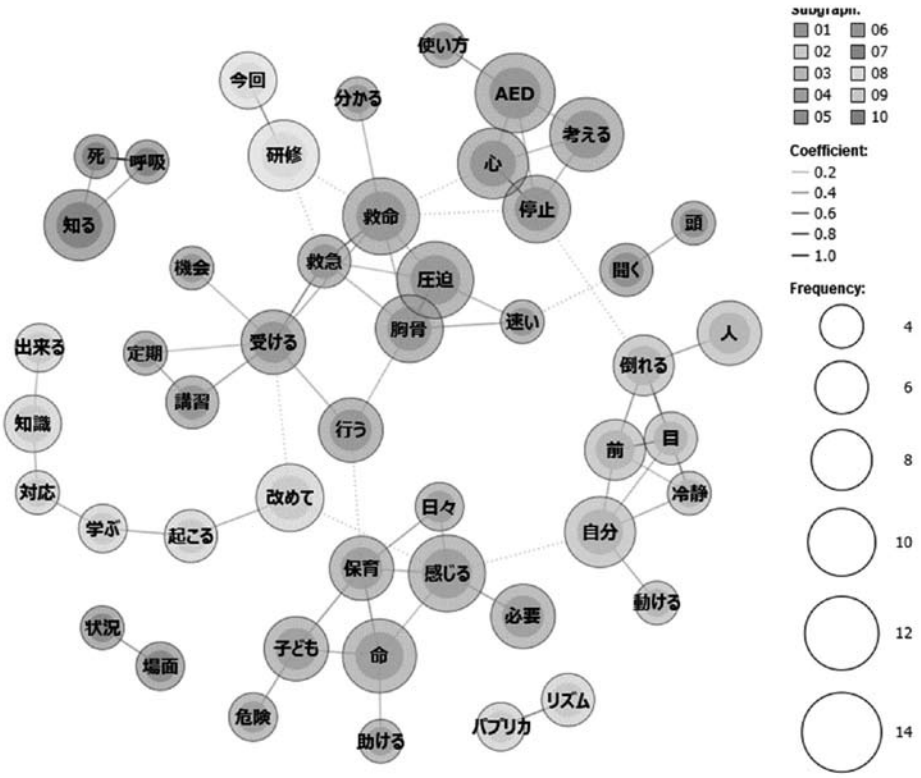

図１．研修後の意見・感想の自由記述からの抽出語の共起ネットワーク（81文）

図１からは、危険と隣り合わせの状況で子どもの命を守る必要を日々感じる保育現場や、今回の様に救命救急講習を定期的に受ける機会を得る必要があるなどの記述が読み取れる。また、胸骨圧迫と AED の使い方を知ることによる心停止からの回復メカニズムの知識や技能修得の重要性を記述する内容が多かった。さらに研修を通し、人が目の前で倒れた時に冷静に動ける自分をイメージできるようになることや、死戦期呼吸の特徴を理解したり胸骨圧迫のリズムを体得したりすることができたとの指摘があった。

② A 県の現任保育者研修は、全体が 80 分の中での約 10 分間であったが、研修後のアンケートより、分かりやすく、楽しく学べる内容の講習となったことが分かった。

二人で一体のトレーニングキット「あっぱくん」を用いたため、同時に参加者の半数が体験し、ペアのもう一人が回数をカウントする実習が可能となり、効率的に実施できたことも特徴であった。

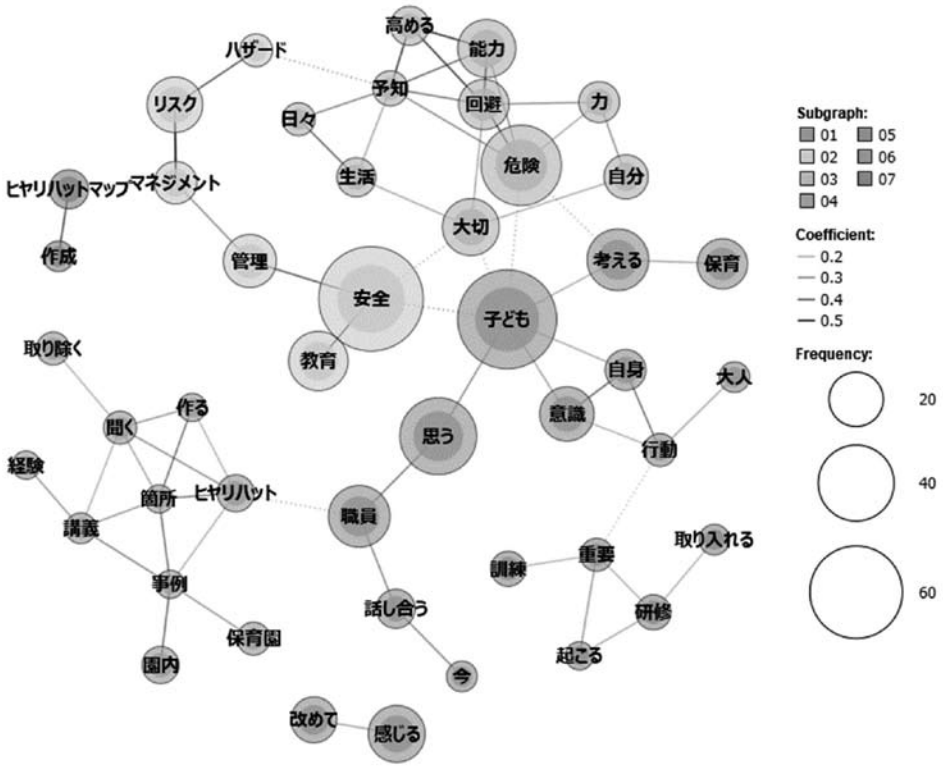

図２．講義の要約・感想の自由記述からの抽出語の共起ネットワーク（154 文）

図２から、講義では園での安全管理のみならず、子どもと子どもを取り巻く全ての生活環境において、子ども自身が安全確保や危険回避の能力を身に付け高めるにはどうすれば良いか、環境整備や関わり方・働きかけ方について職員同士が今話し合い考え合う必要があることが読み取れた。一次救急救命に関する内容は研修全体 80 分の中の約 10 分間であったため、図１の様な AED や胸骨圧迫に特化した記述ではなく、「リスクマネジメントと安全管理」に関する幅広い内容になった。

参加者による代表的な記述として、「園内でヒヤリハット事例をあげて職員で共有し、危険箇所の改善をしてきたが、子どもと共に確認するという意識が薄かったことに気が付いた。また、AED講習において、現場に即していたかが疑問であることに気が付いた。安全管理において、今行っていることに子どもを巻きこんだり、現場に即しているかを確認したりしていきたい。楽しみながらの安全教育も、職員と共に考えたいと思った。」が挙げられる。

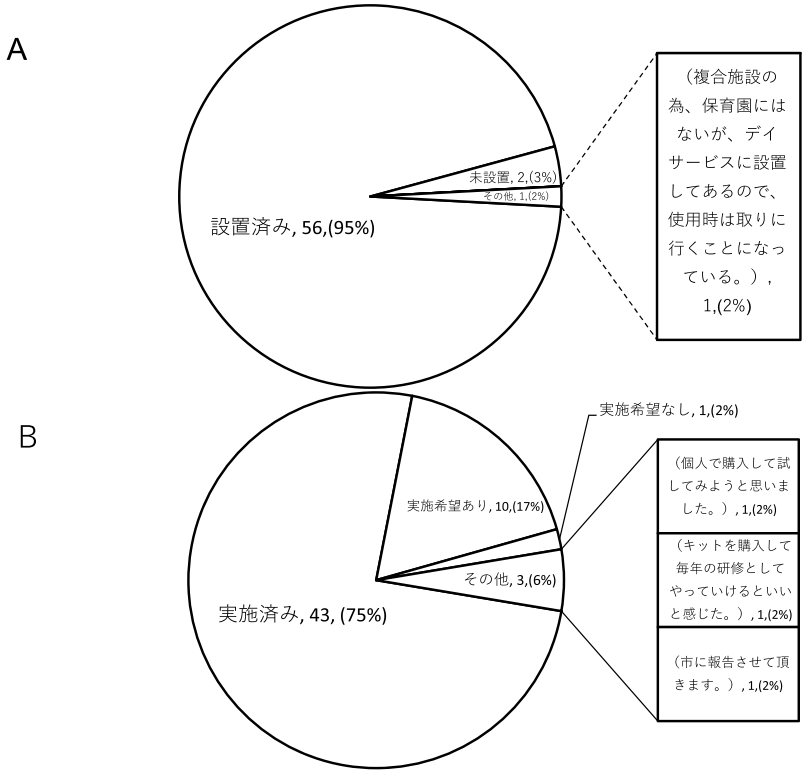

図３．AED設置について（A：n=59）および胸骨圧迫研修について（B：n=57）

図３のＡから、ほとんどの園にはAEDが設置されていることが判明した。しかしながら、図３のＢから、AED使用法の研修を実施済みの園は、およそ４分の３に留まることが確認された。また、図２の元となった自由記述からも見られたように、定期的な研修をして、職員だけでなく子どもや保護者を巻き込んでの安全や命について学ぶ機会を得られるようにしていきたいとの記述が多く見られ、救命率の向上に向けて、より身近で分かりやすい内容の講習会を子どもやその家族に伝えることのできる存在としての保育者の専門性が、新たに発見された。

４．おわりに

保育者が所属する保育施設の資源を生かしながら、子どもの健康と安全を守るとともに、その子どもを取り巻く周辺地域住民の命を守るプロジェクトを担う可能性が示唆された。今後、全国的・国際的にAEDと胸骨圧迫による一次救急の知識・技能が研修等を通じて広まることにより、保育者等の専門性の高まりとともに、地域社会における救命率の向上が期待される。

5．COI 開示

本研究における利益相反は存在しない。

附記：本研究の内容は、第 77 回日本体力医学会大会（2022 年 9 月栃木県総合文化センター）において、ポスター発表をオンライン開催のオンデマンド掲載にて実施した。JPFSM　No.6 に発表の抄録が掲載された。

引用文献

１）厚生労働省医政局長公布「非医療従事者による自動体外式除細動器（ＡＥＤ）の使用について」【改正後全文】医政発第 0701001 号、平成 16 年 7 月 1 日、医政発 0921 第 11 号、平成 24 年 9 月 21 日、最終改正医政発 0927 第 10 号、平成 25 年 9 月 27 日
https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000111659.pdf
（2022 年 10 月 31 日確認閲覧）

２）樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して』、ナカニシヤ出版、2014

AED Dissemination and Enlightenment Project by Nursery Teachers: Aiming to Increase the Lifesaving Rate of Local Residents

Ono, Takashi* Shimizu, Hiroko** Shimizu, Takeaki** Okada, Shigeo**

AED（自動体外式除細動器）は、2004年に公布された「非医療従事者によるAEDの使用について」から徐々に全国で設置が進んでいる。保育者が子育て支援の専門家として、保育の現場のみならず周辺地域住民の一次救急に関わりながら、子どもたちに命の尊さを伝えていく取組について報告した。まず、O認定こども園の保育者が園での事前研修の成果を基に、5歳児クラスとその家族関係者に対し一次救急を伝えながら安全教育の知識・技能を高めることに繋がるかどうかの検証を行った。研修の内容は、NPO法人いばらき救命教育・AEDプロジェクトのPUSHコース（胸骨圧迫とAED使用法に特化した内容）を基にアレンジしたものとした。研修は、短時間で分かりやすく、楽しく学べる心肺蘇生講習となった。一人一体のトレーニングキット「あっぱくん」を用いるため、短時間でも疲れるほどの実習が可能となり、また、一度に大勢の方々が受講できたことも特徴であった。また、A県の現任保育者の園長研修の「リスクマネジメントと安全管理」に関する講座内容の中の10分間という短時間でも実施することができた。二人で一体の「あっぱくん」を用いたため、同時に参加者の半数が体験し、ペアのもう一人が回数をカウントするという実習が可能となり、効率的に実施できたことも特徴であった。これらの参加者による研修内容を振り返る自由記述のコメントやAED設置状況のアンケートなどから、地域の救命率の向上に向け、より身近で分かりやすい内容の講習会を実施し、子どもやその家族に伝えることのできる存在としての保育者の専門性が新たに発見された。保育者が所属する保育施設の資源を生かしながら、子どもの健康と安全を守るとともに、その子どもを取り巻く周辺地域住民の命を守るプロジェクトを担う可能性が示唆された。

キーワード：保育者養成，救命教育，AED，胸骨圧迫，テキストマイニング

**Nagoya Ryujo Women's University*
***Oozora Center for Early Childhood Education and Care*